

今週のみことば

「主の栄光があなたの上に輝いている」
(イザヤ書60章1～6節)
「起きよ。輝け。まことに、あなたの光が来る。主の栄光があなたの上に輝く。見よ、闇が地をおおっている。暗黒が諸国の民を。しかし、あなたの上には主が輝き、主の栄光があなたの上に現れる。」(60:1, 2)。
(マタイの福音書2章1～12節)
「そしてその家に入って、母マリヤとともにおられる幼子を見、ひれ伏して拝んだ。そして、宝の箱をあけて、黄金、乳香、没薬を贈り物としてささげた。」(2:11)

今日のメッセージ要旨

◎私たちは2024年最後の礼拝を守るに当たり、感謝を持って献げる礼拝の意義を改めて考えたい。

◎イザヤ書60章以下最後の数章は、イスラエルの対する希望のメッセージで、神様との平和が終末において実現する、終末において神様の民に与えられる祝福と繁栄の約束です。

◎60章での直接の対象はシオンであり、エルサレムですが、終末的預言として考えると、新しいエルサレムを指しています。神様は預言者イザヤを通して、そこに住む者、即ち新生の恵みに与り、神様の民とされた者すべてに対して、希望のメッセージを語っておられるのです。神様の民には、神様の栄光を繁栄させることが求められているのです。

◎マタイの福音書2章前半の主題は「博士たちの来訪」です。ヘロデ王の時代(BC37-AD4)、東方の博士(バビロニア周辺の占星学者)たちが「イエス・キリストの降誕」の事実を星の出現によって知らされ、その星に導かれてエルサレムまで旅を続け、その在処を知り「黄金、乳香、没薬」をささげて礼拝を捧げた後、彼らは別の道を通って帰国したのです。

◎「ヘロデ王」(1)はローマ元老員からユダヤの王に任ぜられ、エルサレム神殿の再建に着手し、「ヘロデ大王」と呼ばれた。しかし、その家系は純粋なユダヤ人ではなく、エドム人(エサウの子孫、創世記25:30)であった。それ故「ユダヤ人の王としてお生まれになった」(2)イエスを恐れたのです。

◎ヘロデは、救い主が来られたという知らせに「動揺した」した。同様に「人々」も動揺した。ヘロデは猜疑心の強い人物で、心に疑いが起こると側近と言わず妻や子どもも殺した。そんな人物にとって新たな「ユダヤ人の王」の誕生は脅威で、この幼子を亡き者にしなければと計り、「ベツレヘムとその周辺一帯に住む二歳以下の幼子を皆殺させた」のです(16)。

◎①博士たちは星に導かれた。「あなたのみことばはわが足のともしび、私の道の光です」(詩篇119:105)。②「ユダヤ人の王」(2)の言葉は、主イエス様の十字架の罪状書(27:29, 37)も同じです。東方の博士たちは幼子イエスを拝み、「宝の箱をあけて、黄金、乳香、没薬を贈り物としてささげた」(11)。彼らは王にささげるにふさわしい贈り物をささげたのです。それは「キリストの神聖・聖性・死」を示すとも言われる。これらはエジプト逃避の時、家族の経済的な支えになった。

◎私たちも真の救い主に出会うことによって、新しい歩みに導かれるのです。私たちひとり一人は真心から主イエス様を礼拝する者でありたいものです。